

事前評価

		適	否
① 目標の妥当性	上位計画との整合 熊本市中心市街地活性化基本計画の通町・桜町地区における2核3モールの1核を担う重要な事業として位置づけている。 また、熊本市中心市街地南地区市街地総合再生基本計画において熊本市圏の顔としての都市機能の充実させるものとして位置づけている。		○
	地域の課題等への対応(地域の課題と整備計画の目標の適合性) シャッター街や空き店舗に伴い、中心市街地の活力低下が課題となっている。このことから、商業核である桜町地区の機能更新やSP、花畑広場を整備し、賑わいの創出を図る。		○
② 整備計画の効果・効率性	整備計画の目標と定量的指標の整合性 再開発事業を促進することで、都市機能の更新や魅力ある都市空間の整備を行い、にぎわいの創出を図るという目的を市民アンケート、歩行者通行量で検証し整合性を図る。		○
	定量的指標の明瞭性 ・中心市街地に賑わいがあると感じられるか、市民アンケートにより調査する。 ・中心市街地の3地点において歩行者通行量を調査する。		○
	目標と事業内容の整合性 〔中心市街地に賑わいがあると感じる市民の割合〕 現況値 41.3%→ 目標値 60% 〔歩行者及び自転車通行者の通行量〕 旧産業文化会館～新市街 地点 10,644人→24,788人(+14,144人) カーリーノセカンド前 地点 21,300人→29,792人(+8,492人) 旧ダイエー・櫻井総本店前 地点 24,408人→30,524人(+6,116人)		○
	事業の効果(要素事業の相乗効果等)の見込みの妥当性		○
③ 整備計画の実現可能性	円滑な事業執行の環境(事業熟度、住民等の合意形成等を踏まえた事業実施の確実性)		○
	地元の機運(住民、民間等の活動・関連事業との連携等による事業効果発現の確実性)		○